



【武蔵学園記念室】

—創設(1922年)からの武蔵学園(大学・高校・中学)の歩みを保存・公開—

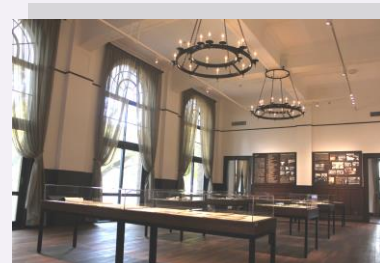
次回企画展「天翔ける自調自考・航空宇宙と武蔵」 紫電改、YS11 から小惑星探査機「はやぶさ」まで

武蔵学園(東京都練馬区/学園長 有馬朗人)では、2017年3月1日より「天翔ける自調自考・航空宇宙と武蔵」と題した企画展を開催いたします。(於:大講堂2階 武蔵学園記念室 南側小展示室)

この展示は、多方面で活躍する武蔵学園の卒業生のなかから、航空宇宙関連の開発者・研究者の業績や人となり、写真、パネル、模型などで紹介するものです。日本最初の航空機事故の犠牲者である徳田中尉の遺児として「落ちない飛行機を造る」という信念から、戦後初の国産旅客機 YS11 の基本設計に携わった徳田晃一氏、国産人工衛星「おおすみ」の誕生まで強靱な意志と指導力を発揮した野村民也氏、そして感動を呼んだ小惑星探査機「はやぶさ」のイオンエンジン開発者の國中均氏など、大空と無限の宇宙に夢を託した武蔵生の「自調自考」の物語をご覧ください。

■概要

武蔵学園記念室は、学園創立70周年の記念事業の一環として企画され、学園関係者の総額9千万円を超える寄付により、1994年に大講堂2階へ設置されました。ここでは、武蔵学園に関わる資料を収集整理・保存し、広く学内外に公開展示していくとともに、将来に予定される学園正史刊行への準備・研究等の中心的役割を果たしています。高校・中学の記念祭や大学祭、ホームカミングデイにも開放しています。



▲武蔵学園記念室

■利用案内

- ◇所在地: 〒176-8533 東京都練馬区豊玉上1-26-1 武蔵学園大講堂2階
- ◇TEL: 03-5984-3748 ◇入場料: 無料
- ◇開室時間: 月曜日～金曜日 10:00～16:00 (12:30～13:30は昼休み閉室)
- ◇アクセス: 池袋より西武池袋線で7分「江古田駅」、新宿より都営大江戸線で15分「新江古田駅」、渋谷より東京メトロ副都心線で17分「新桜台駅」、各駅下車徒歩約7分

■関連URL

- 武蔵学園記念室 <http://www.musashigakuen.jp/ayumi/kinenshitsu/index.html>
武蔵学園のアーカイブを紹介【写真館】 <http://www.musashigakuen.jp/ayumi/kinenshitsu/shoko/shashinkan/index.html>

【大講堂】

1928(昭和3)年、日本の代表的な建築家で、大隈記念講堂や日比谷公会堂を手がけた佐藤功一氏の設計により、旧制武蔵高等学校の講堂として建築されました。

現在は、入学式や卒業式などに用いられ、2階には本学園の

史料を公開している記念室を備えています。鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造の2階建て。ゴシック様式の構造も残しつつ、意匠としては近代的合理的空間をめざしたモダニズムの息吹が感じられ、内壁の布目タイル、外壁のスクラッチタイルなどにも時代の

風合いが表れています。

また、2016年2月には、武蔵大学3号館、武蔵学園根津研究所とともに、第25回BELCA賞(公益社団法人ロングライフビル推進協会BELCA)のロングライフ部門を受賞しました。



▲大講堂外観

■根津育英会武蔵学園(武蔵大学/武蔵高等学校/武蔵中学校) [アクセス:西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分]

【建学の三理想】1.東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物 2.世界に雄飛するにたえる人物 3.自ら調べ自ら考える力ある人物

東武鉄道や東京地下鉄道(現東京メトロ)など多くの鉄道事業に携わり、財界で活躍した根津嘉一郎(初代、1860～1940)が、1922(大正11)年にわが国初の七年制高等学校である旧制武蔵高等学校を創設。旧制武蔵高等学校は「人間形成を根幹に、明日の新しい日本を担う、優れた人材を育てる」という理想を掲げその後の学制改革にともない、1948(昭和23)年に新制武蔵高等学校、1949(昭和24)年に武蔵中学校、武蔵大学となりました。創設から90年以上を経た現在、激しく揺れ動く社会環境の中であって、創設時に掲げた「建学の三理想」は、今なお褪せない価値をもち続けています。

—本件に関するお問い合わせ先—

学校法人根津育英会武蔵学園 武蔵学園広報室 担当: 下川^{しもかわ}
〒176-8533 東京都練馬区豊玉上1-26-1
TEL: 03-5984-4003/FAX: 03-5984-3727
E-mail: pubg-r@sec.musashi.ac.jp